

3 「自立活動の指導のためのチェックリスト」について

自立活動の指導内容が分からない、実態把握の観点が知りたいという場合は、「自立活動の指導のためのチェックリスト」(資料2-2)を使ってみましょう。これは、「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」を基に作成したものです。具体的な子どもの様子や指導内容例は、それぞれの項目をイメージしやすくすることを意図したものであり、特に示されたもののみが指導の対象となるものではありません。

チェックリストの使い方は、添付してある「チェックリスト活用のための留意点」(資料2-1)を参考にしてください。

各項目の解説を、チェックしやすいように箇条書きにしております。

障害の状態や指導内容から考えて、当該の項目と関連付けて指導することが考えられる項目の例示です。

資料2-1
「チェックリスト活用のための留意点」

区分	項目	項目の内容	関連する項目例	氏名()
[3]人間関係の形成	(1)他者とかかわりの基礎に 関すること	<input type="checkbox"/> 人に対する基本的な信頼感の形成 <input type="checkbox"/> 他者からの働きかけを受け止め、 応ずること	[2][6]	・人に対する認識が不 応が乏しい。 ・他者との関わりをも たない。 ・視覚障害があり、他

項目に関わる、児童生徒の障害の状態を例示してあります。具体的にイメージできるよう特定の障害名等を明記している内容もありますが、他の障害であっても、学習上や生活上の困難が共通する場合は、ここで取り上げた状態例を参考にすることができます。

あくまで当該項目を中心として設定した指導内容例です。他の項目と関連して捉えることが必要です。

第3章実践事例集の資料番号です。各校で指導した実践事例をファイリングし、その資料番号を記入してください。

障害の状態例	具体的指導内容例と留意点	資料番号
・人に対する認識が十分に育っておらず、他者からの働き掛けに反応が乏しい。 ・他者との関わりをもとうとするが、その方法が十分身に付いていない。 ・視覚障害があり、他者との関わりが消極的、受動的になる。	・児童生徒の好む関わりを繰り返し、関わる者の存在に気付かせる。 ・指導担当を決め、安定した関係を形成する。やりとりの方法を大きく変えず繰り返し指導し、相互に関わり合う素地を作ったあと、やりとりの方法を増やす。言葉だけでなく、具体物や視覚的な情報を加える。 ・自分の顔を声が聞こえてくる方に向ける。相手との距離を意識して声の大きさを調整したりするなどのコミュニケーションを図るための基本的な指導を行う。	
・言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の心の状態を読み取り、それに応じて行動することが困難である。 ・言葉を字義通りに受け止めてしまい、相手の真意を読み取れない。 ・視覚障害があり、相手の表情を視覚的に捉えることが困難なため、相手の意図や感情の変化を読み取ることが難しい。	・生活の様々な場面を想定し、相手の言葉や表情などから、立場や考えを推測するような指導を通して、相手と関わる具体的な方法を身に付ける。 ・聴覚的な手掛かりである相手の声の抑揚や調子の変化などを的確に聞き分ける。	6

(2)他者の意図や感情の理解 に関すること	<input type="checkbox"/> 他者の意図や感情の理解 <input type="checkbox"/> 場に応じた適切な行動の形成	[2][4][6]	・言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の心の状態を読み取り、それに応じて行動することが困難である。 ・言葉を字義通りに受け止めてしまい、相手の真意を読み取れない。 ・視覚障害があり、相手の表情を視覚的に捉えることが困難なため、相手の意図や感情の変化を読み取ることが難しい。 ・聴覚障害があり、視覚的な手掛かりだけで判断したり、会話による情報が円滑でないために自己中心的にとらえたりしやすい。	・生活の様々な場面を想定し、相手の言葉や表情などから、立場や考えを推測するような指導を通して、相手と関わる具体的な方法を身に付ける。 ・聴覚的な手掛かりである相手の声の抑揚や調子の変化などを的確に聞き分ける。 ・状況の推移を振り返りながら、出来事の流れについて総合的に判断する経験を積ませる。
(3)自己の理解と行動の調整 に関すること	<input type="checkbox"/> 自分の得意なことや不得意なことの理解 <input type="checkbox"/> 自分の <input type="checkbox"/> 集団の	[4][3]-(2)	・先	・状況に合わせて行動することが不得意であることを理解し、行動する前に周囲を観察したり、状況を理解するゆとりをもつ態度を身に付けるように、ロールプレイなどを行う。 ・早期から成就感を味わわせるような活動を設定するとともに、自己を肯定的にとらえる感情を高める。

実態から考えて、必要となる項目にシ点を書き込むなどしてみましょう。

空欄には、児童生徒の実態に沿った内容を記入しましょう。

障害の状態例と具体的指導内容例、留意点は、左右で対になっているだけではありません。必要に応じて指導内容を組み合わせることが大切です。

4 自立活動の指導計画作成に当たって

(1) 実態把握

児童生徒の状態は一人一人異なっています。自立活動では、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服することを目標にしているため、必然的に、一人一人の指導内容・方法も違ってきます。そのため、個々の児童生徒の的確な実態把握が必要となってきます。

実態把握の具体的な内容は、次のようなことが考えられます。

- ・ 病気等の有無や状態
- ・ 生育歴、基本的な生活習慣
- ・ 人や物との関わり
- ・ 心理的な安定の状態
- ・ コミュニケーションの状態
- ・ 対人関係や社会性の発達
- ・ 身体機能
- ・ 感覚機能（視覚，聴覚，触覚，味覚，嗅覚等）
- ・ 知的発達や身体発育の状態
- ・ 興味・関心
- ・ 障害の理解に関すること
- ・ 学習上の配慮事項や学力
- ・ 特別な施設・設備や補助用具（機器を含む）の必要性
- ・ 進路
- ・ 家庭や地域の環境等

実態把握をする方法には、観察法、面接法、検査法等の直接的な方法が考えられますが、それぞれの特徴を十分に踏まえながら、目的に即した方法を用います。保護者から話を聴く際には、その心情に配慮し、共感的な態度で接することが大切です。教育的立場からだけでなく、心理学的・医学的な立場や、児童生徒が支援を受けている福祉施設等からの情報を収集するなどして、多面的に実態把握を行うことも大切です。

なお、収集した実態把握に基づいて個別の指導計画を作成し、それに基づく指導を行い、指導目標、内容、児童生徒の変容を評価して、個別の指導計画を修正していくことが大切です。

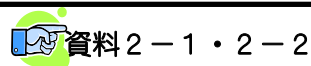
ステップ1から3を参考にして、実態把握をしてみましょう。

【実態把握の際に気をつけること】

- ・ 行動を観察し、その背景や要因を考えましょう。子どもの視点に立って考えてみましょう。
- ・ 環境要因や児童生徒の心理的状态にも着目しましょう。
- ・ できないことだけでなく、もう少しでできそうなことやできていることにも注目しましょう。
- ・ 児童生徒の将来の姿についての見通しをもちましょう。
- ・ 複数の教員の目で実態把握をしましょう。
- ・ 心理、医療、福祉の立場からの情報も集めましょう。
- ・ 検査の実施や関係機関からの聞き取りに当たっては、保護者の理解と承諾を得ることが必要です。
- ・ 実態把握したことについては、保護者と情報を共有し、共通理解を図りましょう。
- ・ 実態把握で得られた情報は個人情報です。取扱いには十分注意しましょう。保管場所、閲覧できる人を決めておくといよいでしょう。
- ・ 子どもの成長や変化に合わせて、随時実態把握を行い、指導計画の修正をしましょう。



ステップ1：「自立活動の指導のためのチェックリスト」に目を通す



「チェックリスト活用に関する留意点」を読んだ上で、「自立活動の指導のためのチェックリスト」に示されている6区分26項目、項目の内容、障害の状態例を一読し、自立活動の指導の対象となることをおおまかにつかみましょう。

ステップ2：「自立活動の指導のためのチェックリスト」に記入



- ① 当てはまる実態例に○をつけてみましょう。他にある場合は、空欄に記入しましょう。
 - ② 該当する項目の内容の□にチェックをしましょう。
- *複数の教員で話し合い、自立活動の指導に関する児童生徒の実態の全体像をつかみます。

ステップ3：「実態把握票」に記入



- ① 「自立活動の指導のためのチェックリスト」の実態例を参考にしながら、複数の教員で話し合い記入します。
 - ② 保護者の意見や専門機関からの意見も聞き取り、記入しましょう。
- *自立活動の指導に関する児童生徒の実態の全体像をつかみます。
- *ステップ2・3を踏まえ、複数の教員で検討、情報を整理し、「自立活動の個別指導計画票」の「実態把握」欄に記入しましょう。ここでは、資料1「自立活動の個別指導計画票」の実態把握欄に記入することが目標です。

資料3「実態把握票」

児童生徒学年・氏名（ 4年・ 笛吹 セン太 ）
記載者氏名 （ 担任 ○○○○ ）

教員から見て	・ ・
保護者から見て	
子どもから見て	
心理・医療・福祉的 視点	
その他 指導上配慮が必要 なことなど	